

地域情報誌  
2017年11月  
(No35)

# DE すがね

〈編集・発行〉生きがいのある須金をつくる会

## 祝！！ 須金に赤ちゃん誕生



名前：福本 桔平 (きっぺい) くん 平成29年7月17日生まれ 4, 028g

中原の福本直樹さん梓さんのお家に、第3子が誕生しました。赤ちゃんが須金で生まれるのは何年ぶりでしょう。子供は地域の宝、とても嬉しい事ですね。みんなで見守っていきましょう！！

### (インタビュー)

#### Q1. 名前の由来は？

A1. 桔梗の桔と平和の平という字です。桔はすぐれた、よい等の意味があるらしく、平和な時代を丈夫に生きてほしいと願いを込めました。

#### Q2. どんな子に育ててほしいですか？

A2. 元気！

#### Q3. 常葉 (姉) ちゃんから一言

A3. 大好きだよ！

#### Q4. 拓未 (兄) くんから一言

A4. 大きくなったらいっぱい遊ぼうね！

#### Q5. 須金の皆さんに一言

A5. あたたかく見守っていただければ幸いです。  
よろしくお願いします！



(文・インタビュー/三牧 清隆)



## 人物紹介

國長 スミエ

(くになが すみえ) さん



**國長さんと言えば“スミちゃんのからし漬け”。いつもおいしく頂いています。前からどんな方が興味があったのですが、今回お話を伺うことが出来ました。**

**Q 1. 國長さんの経歴を教えてください。**

A 1. 下松の出身で米川の郵便局に勤めていました。主人が須金の郵便局に勤めていた縁があって22歳の時結婚を機に、須金にやって来ました。

**Q 2. その頃の須金はどうでしたか？**

A 2. ちょうど菅野ダムができたぐらいで、須金にも4,000人から人がいてとても賑やかでした。飲み屋も多くて映画を上映するところ、パチンコ屋なんかもあったんです。運動会も7部団あって、応援の練習までしていました。

**Q 3. いつも元気に活動されていますね。**

A 3. 11人兄弟の下から2番目に生まれたんですが、両親が丈夫に生んでくれたおかげで、地域のボランティアもできます。18歳の時には国体の400mリレーと高跳びに出ました。高跳びでは4位入賞しています。

仕事も郵便局に始まり、須万酒造、栗の選果場、お茶屋に農園のお手伝いと色々な経験をしてきました。

**Q 4. 健康の秘訣は？**

A 4. みんなと話すこと。好き嫌いが無いことです。出来ることは自分でやること、庭木も出来るところは自分でやりますよ。

**Q 5. 皆さんに一言お願いします。**

A 5. 草刈りや、福祉のボランティアの輪が広がって、皆さんと一緒にできると嬉しいです。私も動ける間は頑張ります！！

**本当に活動的な方で、見習いたいと思います。到底かないそうにありませんが・・・。これからも、元気に活躍して頂きたいです。**

(インタビュー 三牧 清隆)

## 『大津島地区・須金地区ふれあい交流会』開催！



37回目となる、大津島地区・須金地区ふれあい交流会が、晴天の9月25日に開催されました。足達壽富大津島地区コミュニティ推進協議会会長をはじめ、総勢24名の御一行は、まずは、たわわに実った梨とぶどう狩りへと、福田フルーツパークに足を運ばれました。

当日は、9月下旬とは思えないほど良いお天気でしたが、皆さんは農園の方からアドバイスを受けながら、汗をかきかき、楽しそうに梨をもがれていました。私ごとですが、直売所のジャムが美味しそうだったので、お客さんの行列に並んでいると、木村健一郎市長がお出迎えに来場されてます……。えっ、まずい。勤務中にジャム買ってるオレって、大丈夫？ (-\_-;)

その後は、農村環境改善センターに会場を移して、須金地区の皆さんと親睦を深める懇親会です。おいしいお弁当を食べながら、お話に花を咲かせるひと、カラオケや踊りを披露されるひとなど、楽しいひとときを過ごされました。もう少し時間があればなぁと、思いましたが、あっという間に船に乗る時間となり、万歳三唱で見送られながら、徳山港に向けて出発されました。

来春は、大津島に行きますよ。待っててくださいね！

(文 / 須金支所 住吉泰輔)

## 書評 DE SUGANE

### ◎ 『人間の分際』 (曾根綾子(著)/ 幻冬舎新書)



作者の曾野綾子さん、どんな人が興味がありました。というのも、僕の前の職場はボートレース場だったのですが、ボートレースの収益を社会に還元する、『日本財団』という団体があります。その、理事を務めていた方が曾野綾子さんでした。今回この『人間の分際』という本の事を知り読んでみましたが、この方の過去の著書から抜粋されて作られていますので、僕みたいになんか知りたいという人にはうってつけの本です。色々な本を継ぎはぎしているので、読みにくい部分はありますが……。タイトルにある“分際”と言うのは“身の程”という事で、身の程を知ると平穩に生きられますよ、他人と比べずに自分を認めて気楽にいきましょう、という事が書いてある気がしました。沢山の事例をもとに、“人間”について考察されています。結構ストレートに厳しい事も書かれているので、好き嫌いが分かれるかなー。僕はとても良かったと思うのでお勧めします。

(文/三牧 清隆)





須金地区主な行事予定  
(11～12月)

11月

- 11月 5日 (日) もみじパーク下刈  
それーねの日
- 11月 7日 (火) やまびこ号
- 11月12日 (日) ふれあい文化祭・地域参観日
- 11月13日 (月) コミュニティ理事会
- 11月15日 (水) 北部人権教育講習会
- 11月19日 (土) 防災訓練（引渡し訓練）
- 11月22日 (水) やまびこ号
- 11月26日 (日) 須金市日
- 11月27日 (月) 高齢者振興大会

12月

- 12月 3日 (日) 高齢者ふれあい忘年会
- 12月 7日 (木) ふれあい持久走大会
- 12月 8日 (金) やまびこ号
- 12月10日 (日) それーねの日  
亀山八幡宮新嘗祭
- 12月11日 (月) コミュニティ理事会
- 12月22日 (金) 小学校終業式
- 12月23日 (土) しめ飾り教室  
ツリー祭り（体振）
- 12月26日 (火) やまびこ号
- 12月29日 (金)  
～30日 (土) 消防団夜警

※DE すがね無料メール配信

メールでもこの情報誌は読めます！申し込み方法はdesugane@gmail.comへ配信希望と書いたメールをするだけ。励まみや感想もこのメールアドレスで受け付けています。

須金で育って、いま全国でがんばっている皆さんの元へ届けましょう！



特別連載 須金歴史探訪

須金の生い立ち (8) 江戸時代

文 高橋 勝己

1617年（元和3年）須万村、金峰村が徳山藩領となりますが、もともと、萩本藩と仲が悪かった為、1622年（元和8年）金峰村を萩本藩領とされてしまいます。平地は無く、山林ばかりが残され、米の生産ができる土地は萩本藩の領地とされてしまうのでした。米蔵があったのは全て萩の領地内であったと言われています。

徳山藩の須万村では米の生産が上がらない為、1644年（生保元年）請紙制度が設けられ、米の代わりに紙上納制となりました。須万の農民は紙の生産に追われ、米は買うしかありません。そんな中、米の価格が引き上げられた為、1670年（寛文10年）それに反対した須万村の百姓300人余りが大挙し、徳山毛利城を取り囲みました。いわゆる百姓一揆です。また、1677年（延宝5年）には税率が3割5分から4割へ引き上げられ、ますます農民の暮らしは厳しいものとなりました。

そのような、農民の不満を晴らす意味も含めて、1690年（元禄3年）須万市が開設されますが、その後も何度か百姓一揆が起こります。1733年（享保18年）ついに、須万村は大飢饉に見舞われ、疫病が蔓延し、長渡路部落は全滅してしまいました。翌年の1734年（享保19年）ようやく須万村に対し臨時の石下げが行われます。  
(次回につづく)



(写真：田原の石下げの碑)

編集後記

みなさん小さいですが人口欄に注目！なんと人口が増えてますよ～！  
福本桔平くん、ようこそ須金へ！地域のみんなで温かく見守っていきましょう！（須田）